

平成30年度 「学力向上のための学校改善プラン」

学校名

苫小牧市立清水小学校

校長名	松井操人			教頭名	長谷川英昭			教務主任	下江後洋介			研究部長	安田美加子		
教職員数	28	通常学級数	9	特別支援学級数	知的1, 自閉情緒2			児童数	233			PTA数	184		
HPアドレス		www.simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp													

本年度の学力向上のための学校改善プラン「A9で繋がるチーム開成校区」をスローガンに、全市で統一して取り組む「苫小牧市学校教育力向上マスタープラン」を軸にして「苫小牧市学力向上アクションプラン」を推進し、共通取組事項を踏まえて全ての教科における授業改善を行う。また、下支える「清水スタンダード」を「小中のスタンダード」に向けて取組をすすめていく。

1	平成29年度末の状況						中間検証時の状況					
	<p>国語や算数の授業で「課題」や「まとめ」を板書することができ、算数では「習得」と「活用」をバランスよく位置づける授業づくりを目指し、全校体制で取り組むことができた。その結果、教えなければならないことを教え、基礎的・基本的な知識・技能の定着が少しずつ図られるようになった。ただ、他の教科に反映させるまでには至らなかった。平成29年度の全国学力・学習状況調査においては、平均正答率で国語Aは全国平均より0.2%上まわり、国語Bは0.5%上回る結果であった。また、算数Aでは全国平均より0.6%下回り、算数Bでは0.1%下回る結果であった。苫小牧市統一学力検査の得点率においては、4年国語は6%下回り、算数は9.1%下回り、5年国語は1.6%上回り、算数は3.4%上回り、6年国語は1.7%下回り、算数は4%下回る結果となった。領域別では、国語の「書くこと」、算数の「数と計算」「数量関係」で課題が見られた。また相変わらず自分の考えを説明する力や記述する力に課題があり、改善することができなかった。</p>						<p>全国学テの平均点は、国語Aは2.3ポイント上回り、国語Bは4.3ポイント上回った。算数Aは2.5ポイント上回り、算数Bは1.5ポイント上回った。理科は2.7ポイント上回った。苫小牧市統一学力検査の偏差値は、4年国語45.6で、4.4ポイント下回り、算数は44.1で、5.9ポイント下回った。5年国語は45.6で、4.4ポイント下回り、算数は45.3で、4.7ポイント下回った。6年国語は51.9で、1.9ポイント上回り、算数は51.9で1.9ポイント上回った。今年度は全国学テは全教科で上回っているが、次年度に向けては過去問題やサンプル問題に早期に取り組ませていく必要がある。統一学テ結果から各学年ごとの課題が分かり、4年国語は「言語事項・読むこと」、算数は「数と計算・量と測定・図形」、5年国語は「言語事項」、算数は「数と計算」に課題が見られた。今後、課題が見られる領域を中心に取組を進めていく。清水スタンダードは、課題やまとめの板書を他の教科にも応用できている。</p>					

2	平成30年度						中間検証					
	<p>(1) 平成30年度全国学力・学習状況調査では、国語・算数・理科ともに全国平均を0.3%上まわる結果を目指す。 (2) 苫小牧市統一学力調査では、全教科全領域において全国平均を0.3%上まわる結果を目指す。 (3) チャレンジテストにおいて、75%以上の正答率を目指す。 (4) 宿題や家庭学習を行った(A+Bと答える)と言える割合を80%以上を目指す。 (5) LITによる授業公開に、1人1回以上参観する。</p>						<p>プランの変更 有・<input checked="" type="radio"/>無</p> <p>進捗状況の評価 A<input checked="" type="radio"/>B<input type="radio"/>C<input type="radio"/>D<input type="radio"/></p> <p>考察(到達目標の見直しを含む) 全国学テ及び6年の統一学テは、目標を上回ることができた。統一学テは、4.5年(2年)に課題が見られたので、苦手問題に取り組ませていく。チャレンジテストは1.4年が目標を上回ることができたが、他の学年では課題が見られたので、過去問題に取り組ませて正答率を上げていく必要がある。宿題や家庭学習については児童アンケートでA+Bで83.6%となり達成できた。LITの授業参観は、現在2名しか行っていないので、今後働きかけて授業参観を行い、資料を回覧し職員間で情報共有を行う。</p>					

3 学力向上の具体的な到達目標を達成するための今後の具体的な取組(項目別)

	主な取組内容	取組内容の評価指標	1学期				2学期				3学期			中間検証		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	評価	改善のために行う今後の重点
指導方法・指導体制を含めた授業改善	算数科において習熟度別少人数指導やTT指導など、指導方法の工夫改善	3年以上で、TT指導100時間・習熟度別少人数指導125時間以上確保する。(3, 4, 6年は単学級のため、TT指導50時間となり、1, 2年もTT指導50時間実施)。	TT指導・習熟度別指導の授業実践												A B C D	1, 2年のTTの時間を増やしたり習熟度別の取組を行っていくとよい。校務分掌も担当できる加配の配置がいたらよい。共通取組事項の視覚化はほとんどの教科で実践できている。自分の考えや思いの発表は、実践できる教科で行っている状況で、学校評価ではA+Bで88.9%となり目標を超えることができた。
	共通取組事項(本時の目標の焦点化・本時のゴールのイメージ化・ねらいとまとめの視覚化)をふまえた授業改善	すべての学級で年1回以上の研究授業(ブロック授業含む)を行う。すべての教科で焦点化した目標を立てた授業70%以上。すべての教科で視覚化した「ねらい」と「まとめ」を板書した授業70%以上。	全体及びブロックごとの研究推進													
	授業で自分の思いや考えを説明したり発表したりする場の工夫(言語活動の充実)	ペア学習やグループ学習など、授業で自分の考えや思いを説明したり発表したりする。(学校評価でA・Bと答える割合を70%以上)	中間検証													
学習内容の定着および基礎学力の向上	4, 5年で、全国学テの過去問題の実施	過去問題の全国・全道平均同等の得点。無答率を5%以下とする。	中間検証												A B C D	全国学テの過去問題やサンプル問題は5年生の後半から取り組ませ、問題に慣れさせ無解答率を低くする(5年は籍人数で5%以下は1人までなので厳しい)。全国テストや統一テストに全職員に取り組んでもらうように研修と連携して取り組みたい。チャレンジテストは正答率が低い問題にもう一度取り組ませたり、過去問題に取り組ませたりする。ミニテストや単元テストは授業後すぐに行うこともあり、正答率80%は達成できている。教務主任のプリント類の随時印刷で様々な問題に触れることができる。
	全国学テおよび苫小牧市統一学力テストの実施および分析	全教科全領域で全国平均を0.3%上回る。無答率を5%以下とする。分析結果から課題解決のために、全校としての取組を実施。	中間検証													
	チャレンジテストの継続的な実施および分析	チャレンジテストの正答率75%以上。無答率を5%以下とする。	年度末検証													
	漢字の習得、九九や四則計算などの習得	ミニテストや単元テストで正答率80%以上。	年度末検証													
学習習慣の定着	清水スタンダードの徹底を徹底	全教員が同じスタンスで児童の指導にあたる。課題とまとめが書かれた板書・ノート指導80%以上。	年度末検証												A B C D	清水スタンダードの徹底は図れているが、小中スタンダードの話合いが進んでいない。家庭学習は呼びかけは行っているが響かない家庭もあり、学校だけでなくPTA等から更なる呼びかけが必要。係活動と連携した取組で時間を意識して取り組むことができた。読書活動については、梅田先生の熱心な取組もあり、1学期は貸出数が前年度を上回った。家庭と連携したうちとくはまだまだ未定着で学校だけでなく学級通信での働きかけが必要
	「家庭学習の手引き」を活用した家庭と連携した学習の習慣化	家庭学習時間「学年×10分+10分」の実施80%以上 宿題や家庭学習を行ったと言える割合80%以上	年度末検証													
	日常的な読書の充実および読書習慣の定着	学校図書館の貸出冊数、1人当たり前年度+5冊以上、1年生は前年度の1年生の貸出冊数の平均以上家読(うちどく)10分以上	年度末に前年度との比較・検証													

